

認知症事例検討会 開催報告

No. 2

日 時 : 平成 31 年 2 月 21 日 (木) 18:00~19:30

場 所 : 北見赤十字病院 北館 3 階 大会議室

内 容 : 多職種事例検討会

事例テーマ : 「家族が対応に苦慮し、支援も入れない事例」



上記内容にて事例検討会を開催致しました。平日にも関わらず、介護職、介護支援専門員、保健師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士等の多職種の関係者 67 名の参加がありました。

今回は高齢者相談支援センター中央 中原明美氏が事例提供して下さいました。

検討方法はシンプルに、ご本人やご家族に対して、どのような支援が必要かについてのグループディスカッションとしました。さらには、単純にどのサービスを提供するかということだけではなく、他者の介入を拒絶しているご本人さんの懐にどう入り込んでいけば良いかという広い視野での支援をテーマとしました。

当日は認知症疾患医療連携協議会 担当者会議メンバーに各グループのファシリテーターとしてご協力頂きました。

今回は、介入困難な事例であり、参加者からあまり意見が出ないことを懸念していましたが、実際は活発なディスカッションが展開され、参加者の皆さんの熱意を感じました。

各グループ（10グループ）から検討内容を発表頂くと、多種多様な数多くの意見が挙がりました。全体で共有するうちに、なるほどと感心する声や、ユーモアのある意見に笑い声も聞かれ、和気あいあいとした雰囲気となりました。

最後に、事例提供者の中原氏から、「多くの視点を提示してもらう事ができ、事例提供をして良かった。早速実践に活かしたい。」と、お話し頂き終了しました。



終了後のアンケートでは、参加者 98%が次回も事例検討会へ参加希望との結果でした。今後も年 1~2 回のペースで開催を予定していますので、多数のご参加お待ちしております。

日頃、困難事例を抱えてお困りの関係者の方は、ぜひ事例募集の際に事務局にご連絡下さい。認知症疾患医療センター職員等が事例をまとめる段階からサポート致します。

(事務局 伊藤 記)